

(別記)

2022 年度むかわ町鵜川地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

主要農作物の作付は、水稲からの転作が進んでおり、豆類、てん菜などの畑作物や飼料作物が水田面積（約2,420ha）の半数以上を占めている。また、施設園芸作物については、野菜指定産地の取得や気象条件を生かした周年栽培に取り組んでおり、生産量を伸ばしている。

農業経営においては、産地交付金などが農業収入で大きなウエイトを占める実態にあることから、農業経営意識の改革はもとより、農産物の生産性や収益性の向上、コスト低減などにより農業収入を向上させる必要がある。

農地においては、高齢化や担い手不足などの減少に伴う離農が増加傾向にあることから、地域の中心経営体などへの農地の利用集積を推進する必要がある。一方で、個々の経営規模が拡大したことにより、輪作体系の維持や多種多品目の作付を維持していくことが困難になってきている。

地域農業においては、継続的な発展と活力ある地域社会を形成するため、就農希望者の農業体験を通して新規就農者の育成・確保に取り組んでいる。また近年、異常気象による突発的な病害虫の発生や長雨やゲリラ豪雨による被害が多くなっている。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

むかわ町鵜川地域において、収益性の高い水田農業経営の転換を図るため、産地交付金を活用しながら、主食用米と比較して面積当たりの所得が高いブロッコリーやトマトなどの高収益作物の作付拡大を図っており、水田作に占める同作物の作付率は約10%である。将来的な経営の安定化を図るためには、高収益作物の更なる作付拡大が必要となっている。

今後は、水田をフル活用しながら計画的かつ安定的な生産・供給が可能な産地づくりを一層進め、収益性の高い水田農業経営への転換を図るため、町や農業協同組合などの関係機関団体が連携して推進体制を構築するとともに、国営かんがい排水施設の整備促進を図り、高収益作物や作業効率の高い子実用とうもろこしの導入などを推進する。

高収益作物の導入においては、排水対策を進め、需要が増加している露地野菜の生産拡大やスマート農業技術の導入による農作業の省力化や低コスト生産技術の導入などの取組を通じて、収益力を向上させて経営の安定化を進める。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

農業者の高齢化や担い手の減少に伴い、今後は地域での農地集積・集約化を進め、水稲作付を行いながら水田の維持を行う。また湿害対策などを取り入れて、ブロックローテーション体系の構築を進め、飼料作物や麦・大豆などの畑作物を安定的に生産し、水田機能を維持する。

地域の実情を把握するため関係機関と連携し、水稲を組み入れない作付体系が定着している地域については、畑地化に係る支援内容の情報提供や労働生産性の高い作物、省力的な管理が可能な作物を導入できるように地域の作付方針について助言を行う。また畑地化の導入を進めるにあたっては、人・農地プランなどにより描かれた地域の将来像や担い手の農業経営改善計画など効率的な土地利用に配慮する。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

恵まれた気候、風土を生かしたクリーンで良質・良食味米の生産拡大に努め、米の安定出荷と稲作生産者の所得向上を基本に進める。このことにより、消費者や実需者ニーズに応えられる産地ブランドの確立を図り、売れる米づくりに向けた生産・販売を推進する。主食用米作付にあたっては、「ななつぼし」、「ゆめぴりか」を中心に高品質米生産（低タンパク米）に向けた取組を推進する。

(2) 非主食用米

生産調整に伴い減少してきた水張面積を維持するため、非主食用米（飼料用米・加工用米・備蓄米）の生産に積極的に取組み、水田を有効活用する対策として推進する。

ア 飼料用米

主食用米の生産調整により水張面積が減少している中で、国からの交付金の影響もあり、主食用米から飼料用米への作付転換が進められてきた。実需者も確立されており、需要に応じた供給を可能とするため、品質の均一化や生産面積の維持・確保を進める。また生産コスト削減のため、直播栽培や農作業委託による省力化を図る。

イ 加工用米

生産調整による主食用米からの転換作物として生産の拡大を推進してきた。今後も実需との結びつきを強化するとともに、生産面積の維持を図る。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦、大豆においては、心土破碎などによる排水対策を必須とした生産技術の取組による作付で収量の安定化を推進する。

特に大豆においては、内閣総理大臣賞等の全国的に高い評価を得ている加工用大豆スズマルの高品位安定生産や加工用大粒大豆の安定生産を推進する。麦・大豆は地域の輪作体系を維持していく上で重要な作物であるため、今後は団地化などを推進しながら効率的な栽培体系を構築し、作付面積の維持・拡大を図る。

飼料作物においては、輸入飼料価格の高騰などで自給飼料の確保が求められていることから、畜産農家との連携を基本に需要に応じた作付を進め、WCS用稲作付の導入や草地の植生改善を行い自給飼料の安定生産や品質の向上を図る。

(4) そば

輪作体系に必要な作物であり、実需者との契約に基づき、需要に応じた作付を行うとともに、品質の向上を図るため排水対策などの取組を徹底し栽培を推進する。

(5) 高収益作物（園芸作物など）

ア 土地利用型作物

畑作との輪作体系に重要となる「南瓜」、「馬鈴薯」、「キャベツ」、「露地レタス」、「ブロッコリー」においては、地域振興作物として推進し3年以上の輪作体系、土壌診断に基づく施肥、適期防除、技術習得の徹底などによる計画的な生産により品質の高い作物を生産し、収益の向上を図る。また農地の土壌性質は泥炭地が多く、近年の長雨やゲリラ豪雨による被害も多くなっていることから、排水対策の徹底を必須として推進する。

イ 施設園芸作物

地域振興作物に指定している野菜を推進する。鶴川地域では、降雪量が少なく冷涼な気候風土を活かして、トマトとレタスを組み合わせた通年栽培の定着化を図っている。近年、トマトサビダニやうどんこ病などによる収量の減少が多くみられていることから、病害虫防除を徹底し、品質の向上と安定的な生産による産地づくりを推進する。また野菜指定産地対象品目であるほうれん草は、東いぶり広域ブランドのもと道内外の市場で産地形成がされており、今後は産地ブランドの拡大を図る。

ウ 花き

花きは、冷涼な気候条件を活かした作物として地域で推進しており、市場評価も高くなっている。近年は産地間での販売競争が高まっているため、栽培管理技術の高位平準化、低コスト省力化技術の確立、輸送体制の強化などにより安定的で周年出荷体制が可能な産地づくりを推進する。

(6) てん菜

てん菜は、耐冷性作物として地域に適した作物であり、合理的な輪作を確立する上での基幹作物であることから重点品目と位置付けして、排水対策や適正施肥など栽培管理技術の向上による収量の確保と栽培面積の維持確保を推進する。

またアブラムシやヨトウガなどの害虫被害対策として、害虫防除の徹底を図り収量の安定化を推進する。

(7) 小豆

小豆は、輪作体系に必要な作物であることから、実需との出荷契約に基づき需要に応じた作付を行うとともに、品質の向上を図るために排水対策等の取組を徹底し、栽培面積を維持する。また栽培時に窒素固定能力の高い根粒菌を有効活用することで生産性が向上することから、収量増加の取組として推進する。

(8) 地力増進作物

地域では、緑肥用えん麦の作付や「北海道緑肥作物等栽培利用指針（改訂版）」（平成16年3月策定）などに基づく地力増進作物の作付により、土壌病害の抑制・土壌環境の改善を行い、生産コストの低減及び環境負荷の軽減に配慮した合理的な施肥管理を進めながら、次期作物である地域振興作物及び高収益作物の生産性向上を図る。

対象となる地力増進作物について、イネ科（緑肥用えん麦、ライ麦、とうもろこし、イタリアンライグラス、ソルガム、ギニアグラス、スーダングラス）、マメ科（大豆、アカクローバ、クリムソンクローバ、ヘアリーベッチ）、アブラナ科（シロカラシ、なたね）、その他（マリーゴールド、ねぎ、ひまわり、ハゼリソウ）を対象とする。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和5年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	521.97	-	505.92	-	530	-
備蓄米	-	-	-	-	-	-
飼料用米	164.1	-	143.72	-	107	-
米粉用米	-	-	-	-	-	-
新市場開拓用米	-	-	-	-	-	-
WCS用稲	-	-	-	-	-	-
加工用米	202.04	-	210.51	-	212	-
麦	137.98	-	173.4	-	140	-
大豆	60.77	-	185.69	-	216	-
飼料作物	659.4	-	662.75	-	665	-
・子実用とうもろこし	14.19	-	50.04	-	15	-
・デントコーン	9	-	10.45	-	10	-
・牧草	636.21	-	602.26	-	640	-
そば	13.47	-	17.2	-	10	-
なたね	-	-	-	-	-	-
地力増進作物	5.37	-	13.98	-	10	-
高収益作物	260.5	-	287.58	-	380	-
・野菜	254.8	25.05	282.39	24.37	375	-
・花き・花木	5.7	-	5.19	-	5	-
・果樹	-	-	-	-	-	-
・その他の高収益作物	-	-	-	-	-	-
その他	137.25	-	115.44	-	143	-
・小豆	60.77	-	48.59	-	65	-
・てん菜	76.48	-	66.85	-	78	-
畑地化	0	-	0	-	0	-

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	用途名	目標	前年度 (R3実績)	目標値 (R5年度)
1	畑作物、露地野菜、施設野菜、花き、飼料作物	農地集積農業者助成	作付面積 (a) 集積面積 (a)	144,769 70,830	139,200 76,036
2	畑作物、露地野菜	農地集積助成	作付面積 (a) 賃貸のうち対象作物の面積 (a)	71,440 30,239	68,000 33,344
3	加工用米、飼料用米	新規需要米の省力化助成	取組面積 (a) 対象作物の実施率 (%)	28,006 76.42	25,000 80
4	麦、大豆 (黒大豆を含む)	特殊肥料散布助成	麦の作付面積 (a) 大豆の作付面積 (a) 麦の平均反収 (kg/10a) 大豆の平均反収 (kg/10a)	13,798 21,265 485 250	14,000 21,600 540 235
5	小豆	収益向上作付助成	小豆の作付面積 (a) 平均反収 (kg/10a)	6,077 222	6,500 230
6	小豆	増収対策助成	小豆の作付面積 (a) 平均反収 (kg/10a)	6,077 222	6,500 230
7	てん菜	収益向上作付助成	てん菜の作付面積 (a) 平均反収 (kg/10a)	7,648 6,444	7,800 6,000
8	てん菜	直播栽培	取組面積 (a) 実施率 (%)	5,044 65.95	7,000 90
9	馬鈴薯、南瓜、キャベツ、露地レタス、ブロッコリー	収益向上作付助成	作付面積 (a) 平均反収 (kg/10a)	馬鈴薯2,115 南瓜7,223 キャベツ3,494 露地レタス909 ブロッコリー7,434 馬鈴薯2,920 南瓜1,300 キャベツ4,860 露地レタス3,040 ブロッコリー878	馬鈴薯1,800 南瓜7,000 キャベツ4,000 露地レタス1,200 ブロッコリー7,000 馬鈴薯3,000 南瓜1,700 キャベツ5,000 露地レタス3,400 ブロッコリー1,200
10	トマト、ミニトマト、ニラ、ほうれん草、レタス、いちご	収益向上作付助成	作付面積 (a) 平均反収 (kg/10a)	トマト2,562 ミニトマト151 ニラ250 ホウレンソウ1,134 レタス2,628 イチゴ103 トマト9,236 ミニトマト2,155 ニラ3,273 ホウレンソウ710 レタス5,760 イチゴ1,943	トマト2,700 ミニトマト200 ニラ280 ホウレンソウ1,300 レタス2,800 イチゴ115 トマト9,000 ミニトマト5,400 ニラ3,300 ホウレンソウ1,100 レタス5,200 イチゴ1,500

11	トマト、ミニトマト、ニラ、ほうれん草、レタス	(加算)二毛作助成	取組面積 (a) 実施率 (%)	2,505 58	3,000 65
12	花き	収益向上作付助成	作付面積 (a)	アルストロメリア154 スターチス168 カーネーション50 HBスターチス20 リシアンサス45	アルストロメリア175 スターチス190 カーネーション78 HBスターチス40 リシアンサス60
			平均反収 (本/10a)	アルストロメリア 72.692 スターチス96,478 カーネーション 124.918 HBスターチス58,378 リシアンサス15,262	アルストロメリア 76.000 スターチス85,600 カーネーション98,800 HBスターチス43,400 リシアンサス16,900
13	飼料作物	収量向上作付助成	作付面積 (a)	牧草63,630 デントコーン900 子実コーン1,419	牧草64,000 デントコーン1,000 子実コーン1,500
			平均反収 (kg/10a)	牧草2,490 デントコーン6,963 子実コーン1,044	牧草4,000 デントコーン6,900 子実コーン1,000
14	そば	収益向上作付助成	そばの作付面積 (a) 平均反収 (kg/10a)	1,347 135	1,000 120
15	飼料用米	飼料用米の複数年契約加算	作付面積 (ha) 複数年契約面積 (ha)	164.1 114.67	107 90
16	地力増進作物	地力増進作物への助成	作付面積 (ha)	5.37	7

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:北海道

協議会名:むかわ町鶴川地域農業再生協議会

整理番号	使途 ※1	作期等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	農地集積農業者助成	1	5,320	畑作物、露地野菜、施設野菜、花き、飼料作物	助成対象者が集積している農地を借り受け、対象作物を作付すること。
2	農地集積助成	1	5,320	畑作物、露地野菜	助成対象者が集積している農地を借り受け、対象作物を作付すること。
3	新規需要米の省力化助成	1	6,650	加工用米、飼料用米	除草剤(豆つぶ剤)の散布、又は同等品の散布をすること。
4	特殊肥料散布助成	1	5,320	麦、大豆(黒大豆を含む)	花吹雪または花吹雪EXの散布をすること。
5	収益向上作付助成	1	13,300	小豆	排水対策(サブソイラ等)の実施と土壌診断結果に基づく施肥を行うこと。
6	増収対策助成	1	5,320	小豆	小豆の種子に根粒菌を入れてから播種すること。
7	収益向上作付助成	1	19,940	てん菜	排水対策(サブソイラ等)の実施と土壌診断結果に基づく施肥を行うこと。
8	直播栽培	1	5,320	てん菜	直播栽培を行うこと。
9	収益向上作付助成	1	26,590	馬鈴薯、南瓜、キャベツ、露地レタス、ブロッコリー	排水対策(サブソイラ等)の実施と土壌診断結果に基づく施肥を行うこと。
10	収益向上作付助成	1	13,300	トマト、ミニトマト、ニラ、ほうれん草、レタス、いちご	土壌診断結果に基づく施肥等を行うこと。
11	(加算)二毛作助成	2	5,320	トマト、ミニトマト、ニラ、ほうれん草、レタス	同一ハウス内における二毛作に取り組むこと。
12	収益向上作付助成	1	13,300	花き	土壌診断結果に基づく施肥等を行うこと。
13	収量向上作付助成	1	5,320	飼料作物	土壌診断結果に基づく施肥等を行うこと。
14	収益向上作付助成	1	20,000	そば	土壌診断結果に基づく施肥等を行うこと。
15	飼料用米の複数年契約加算	1	6,000	飼料用米	<p>需要者側(需要者又は実需者団体)へ出荷・販売を目的として、以下の要件を満たす3年以上の複数年契約(令和2年産から新たに結んだ令和4年産までの3年分を含むもの)に基づき、対象作物の生産に取り組む販売農家又は兼業営農(複数年契約に係る新規需要米取組計画又は生産製造連携事業計画に位置付けられた者に限る。)による取組であること。</p> <p>①生産者側(生産者又は生産者団体のいずれか)と需要者側(需要者又は需要者団体のいずれか)の契約であること。</p> <p>②販売契約書に各年産米の契約数量及び契約価格(契約価格の設定方法を含む)が明確に記載されており、かつ、契約不履行に対する違約条項があること。</p> <p>③複数年契約期間中の契約数量が維持又は増加するものであること。</p>
16	地力増進作物助成	1	20,000	地力増進作物	対象作物の適期播種及び適期すき込み作業を実施すること。

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

(別紙)

産地交付金地域枠 対象作物一覧について

(産地交付金地域枠対象作物一覧)

畑作物	露地野菜	施設野菜	飼料作物
麦	馬鈴薯	トマト・ミニトマト	牧草
大豆(黒大豆含む)	南瓜	ニラ	デントコーン
そば	キャベツ	ほうれん草	子実とうもろこし
てん菜	露地レタス	レタス	
小豆	ブロッコリー	イチゴ	

(地力増進作物一覧)

イネ科	緑肥用えん麦、ライ麦、とうもろこし、イタリアンライグラス、ソルガム、ギニアグラス、スーダングラス
マメ科	大豆、アカクローバ、クリムソンクローバ、ヘアリーベッジ
アブラナ科	シロカラシ、なたね
その他	マリーゴールド、ねぎ、ひまわり、ハゼリソウ